

令和6年3月22日(金)

ゆずり葉

今日は、河井醉茗（すいめい）の「ゆずり葉」の詩を紹介します。

子供たちよ。これはゆずり葉の木です。

このゆずり葉は 新しい葉が出来ると
入り代わって古い葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉 こんなに大きい葉でも
新しい葉が出来ると無造作に落ちる
新しい葉にいのちをゆずって――。

子供たちよ

お前たちは何をほしがらないでも
すべてのものがお前たちにゆずられるのです
太陽のめぐるかぎり

ゆずられるものは絶えません。

かがやける大都会も

そっくりお前たちがゆずり受けるのです。

読みきれないほどの書物も

幸福なる子供たちよ

お前たちの手はまだ小さいけれど――。

世のお父さん、お母さんたちは

何一つ持ってゆかない。

みんなお前たちにゆずってゆくために

いのちあるもの、よいもの、美しいものを、
一生懸命に造っています。

今、お前たちは気が付かないけれど

ひとりでのいのちは延びる。

鳥のようにうたい、花のように笑っている間に
気が付いてきます。

そしたら子供たちよ。

もう一度ゆずり葉の木の下に立って

ゆずり葉を見るときが来るでしょう。

醉茗（すいめい）は、1874年（明治7年）生まれの日本の詩人です。この「ゆずり葉」はかけがえのない大切なものすべてを、子供たちのために引き継ごうとしている詩です。喜入中学校の皆さんも、引き継がれたものを大切にしていきましょう。